

第3回 第3期下野市地域福祉計画及び活動計画策定委員会 議事録

審議会等名 令和3年度 第3回 第3期下野市地域福祉計画及び活動計画策定委員会
日 時 令和3年10月15日(金) 午後1時30分から
会 場 下野市役所 303・304会議室
出席者 林委員、川俣委員、小室委員、軽部委員、山田委員、粥見委員、鱒淵委員、
吉田委員、海老原委員、布袋田委員、梶井委員、石嶋委員、國元委員、
山口委員、小倉委員、齋藤委員
【欠席委員】大古委員
事務局 下野市：福田健康福祉部長、仙頭社会福祉課長、大門課長補佐、植野主幹、齋藤主事
社会福祉協議会：山中局長、角田次長、滋野課長、桑島副主幹、篠崎主査
公開・非公開の別 (公開 一部公開 非公開)
傍聴者 0人
報道機関 0人
議事録(概要) 作成年月日 令和3年10月22日

1. 開会

(事務局) 第3回 第3期下野市地域福祉計画及び活動計画策定委員会を開会いたします。本日はお一人の方が遅れている状況ですが、委員17名に対して出席委員16名となっておりますので、下野市地域福祉計画及び活動計画策定委員会設置要綱第6条第2項の開催要件に基づき会議が成立することをご報告いたします。

2. あいさつ

(事務局) 開会にあたり、林委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。

(林委員長) 7月に2回目の会議を開催しました。議事録が同封されていたのでご覧いただいたと思います。前回の会議から約3か月間新型コロナウイルスが猛威を振るっており外に出られず地域活動も停滞していました。非常事態宣言が明けてから東京の感染者も一気に減りました。第6波を警戒しながら、経済、そして薄れてしまった私たちのやる気も、できるだけ早く元の生活に近づいていけばと思います。

この3か月間事務局の方ではアンケートや懇談会で、若者の意見を把握する企画などを設けていただきました。本日は、これらの結果報告を受け骨子案を検討し、次回11月には肉付けした計画の基本的な素案を検討いただくこととなります。事務局の説明と合わせてみなさんと共有してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) ありがとうございました。策定委員会設置要綱第6条により、ここからの議事進行につきましては林委員長をお願いいたします。

(林委員長) 本日の次第の議題が1～5、その他になっています。みなさんの進行よろしく願いいたします。議事録署名人ですが、委員名簿8番の吉田委員、9番の海老原委員にお願いいたします。それでは次第に沿って議事に入ります。

3. 議題

(1) 市民アンケート調査結果の報告について

(事務局) 資料1に基づき説明

(林委員長) 市民アンケート結果のうち、骨子案に掲載するものを概要として説明いただきました。資料1ではクロス集計等が多く入っています。それから前回、前々回と調査項目が同じものについては比較等も行っています。この点について質問、ご意見ありますか。

このアンケートは回収率が50%近くと、コロナ禍の影響か、今回は前回、前々回と比較してかなり高くなっていました。そういった点からも今回の結果が全体を表していると思います。一方で地域活動の取組への参加については割合が低いなど、意欲があっても結びついていないというところも見受けられます。この結果は、これから私たちが何をしていけないといけないかを考えていく参考にしたいです。資料1に記載されている自由意見等については、計画の肉付けの段階で生かしていきたいと考えています。市民アンケートの結果は、じっくり目を通していただきたいです。ご質問はありますか。

—質問・意見無し—

(2) 団体アンケート・ヒアリング調査結果の報告について

(事務局) 資料2に基づき説明

(林委員長) 団体のアンケートの後に、ヒアリングを6団体に行ったということによろしいでしょうか。

(事務局) はい。

(林委員長) ヒアリング対象の6団体はどのように選んだのですか。

(事務局) 各分野から特に聞いてみたい団体を選定しオンライン、電話等を利用して行いました。内容については、資料2の25ページから各団体のものを掲載しています。この6団体は高齢者福祉分野、障害者福祉分野、子育て支援分野、地域コミュニティづくり分野、ボランティア支援分野の団体にお願いしました。

(林委員長) 骨子案ではアンケート調査の内容を基に、ヒアリングの内容もいくつか挙げて解説をしているということですか。

(事務局) そうです。結果から見受けられる課題については、アンケートとヒアリングで重複する点が多かったため、まとめた形で掲載しています。

(林委員長) 資料2をどのように骨子にまとめていったのか道筋が見えたと思います。幸いなことに社会福祉協議会が役に立っているといった結果が見受けられましたが、各分野、活動内容によって連携先や関心が異なるということが見える報告だったと思います。気になった点として整合性は不明ですが、資料1の20ページと、骨子案の32ページで同じような設問がありますが、活動団体で各課題を把握している割合が高い一方で、「わからない」についても高くなってはいますが、理由はわかりますか。

- (事務局) 資料1の20ページの住民アンケートについては、「いない」と「わからない」を合わせると値が73.4%です。一方の団体アンケートについては、32ページのグラフで「いない」と「わからない」を合わせると70.4%で、ほぼ同数になります。
- (林委員長) 私の思いとしては、近い数字にならない方がよかったです。それは、活動している人が課題を把握しているという割合は高いので、活動すると地域の課題が見えてくるとしたかったのですが、「いない」と「わからない」の合計と同じくらいの値となってくると理由が何かと気になるので質問しました。
- (石嶋委員) 31～35ページの各項目について「☆」印で「意見が挙げられています」とありますが、これは1団体でも意見があれば書いてあるのか、複数団体から出たものなのか、どちらでしょうか。「意見が挙げられています」だけでは頻度が分かりません。
- (事務局) 31ページの中段を見ていただくと記号の説明が記載されています。
▷はアンケート調査のご意見、☆はヒアリング調査のご意見となっているため、☆印はアンケート調査から見えた意見というよりも、アンケート調査後に行ったヒアリング調査で改めてでてきた意見を記載しています。
- (石嶋委員) ヒアリングは複数団体から行ったのですか、1団体だけ行ったのですか。
- (事務局) 6団体からヒアリング調査を行っています。
- (林委員長) 6団体の中で1つの団体からのみ挙げた意見でも、こちらに記載されていますか。といったご質問だと思います。ヒアリングの中で特徴的なものを事務局が取捨選択されたということですか。
- (事務局) そうです。事務局で集計したうえでまとめました。
- (石嶋委員) 例えば「リーダーのなり手がいない」という意見は、1団体のみなのか、多く出ているのかどちらでしょうか。
- (事務局) 複数団体からの意見となります。
- (石嶋委員) わかりました。
- (林委員長) 資料2では、自由記述も含めた56団体のアンケート回答が記載されています。これらの中から特徴的なものを選んで取りまとめたうえで、アンケート調査のご意見としています。市民アンケートと比較すると、団体アンケートの部分は文字が多いので、読み方に戸惑ってしまう印象を受けます。
他にご質問なければ、まとめて最後に質問を受け付けます。
- (林委員長) ヤングケアラーについては、市民調査でも団体調査でも把握している割合は0%となっていますが、本当にいないのでしょうか。
- (事務局) 調査を行った際に、そういった結果はありませんでした。
- (林委員長) 市民調査でも意見がなく、団体調査でもないのが気になりました。
- (事務局) 現状はヤングケアラーの認知度が低いため、日頃そういった状態に目が行きづらく0%となっているのではないかと思います。
- (林委員長) 実態調査をやれば出てくると思います。小学校、中学校、高校を含めると変わってくるかもしれません。
- (事務局) いないわけではないと思いますが、今後周知を図っていく必要があると思います。

(3) 住民懇談会の報告について

(事務局) 資料3に基づき説明

(林委員長) 骨子では住民懇談会に関する実施概要として3ページ分にまとめてあります。事前送付の資料を見て感じた点として、広げるチームも2回、3回とできればより広がったかなと思いましたが。資料3の6ページから、現行計画の基本目標ごとに課題がまとめられているので、策定委員としても素案にどの程度踏まえられているのか見ていくことができると思います。骨子案は、住民懇談会参加の18人の内容で深めたものではありませんが、次回の素案を検討する段階で深めていく必要はあると思いましたが。それから大学生の取組ですが、「大学生等」となっているのが高校生も含まれていますか。

(事務局) 高校生はいません。大学生以上です。

(林委員長) 大学生以上の若い人ですね。この資料3の広げるチームの事例部分とステップ4の「自分にもできることがあるだろうか？」というアイデアは市民向けにも活用ができるものだと思います。こちらの内容が骨子案では3ページ分になっているということですか。

(事務局) はい。3ページの分量です。

(林委員長) もう少しページを増やしても良いかと思えます。住民懇談会の報告をいただきました。この件についてご質問ありますか。18名の市民の方はどのような方が参加したか分かりますか。

(事務局) 一覧を掲載はしていませんが手元に資料としてあります。深めるチームは下野市自治会連絡協議会、下野市民生委員児童委員協議会、下野市ボランティア連絡協議会、下野市中心身障害児者父母の会、下野市老人クラブ連合会、下野市ひとり親福祉会、身体障害者福祉会、生活支援コーディネーター、サロン運営者といった方がメインで参加いただいています。広げるチームは、大学生が中心で、国際医療福祉大学の学生、宇都宮大学、自治医科大学の看護学生、地域おこし協力隊のほか、策定委員の山口委員にもご参加いただきました。

(林委員長) 若者の意見を聞くということは重要な機会ですので、今後もぜひこういった思いを大切に育てていってもらえればと思います。市民アンケート、団体アンケート・ヒアリング、住民懇談会の報告書を前回7月の委員会以降、事務局中心に調査をしていただき、まとめたものとなります。この全てを通して質問はありますか。非常に貴重なものです。新型コロナウイルスの影響が出ている面もありますが、この部分は考えていけないといけません。本計画策定にとって非常に大事な声が集まっているため、これらを受けてどういった計画を策定するかについては、いよいよ私たちの出番です。そういった意味でご質問あるかと思いますが、時間の都合で次に進めます。

—質問・意見無し—

(4) 計画の骨子(案)について

(事務局) 追加資料1、追加資料2、資料4に基づき説明

(林委員長) 追加資料1は変更のあった部分を明確にさせていただいたということですが、目次構成案について何か質問等ありますか。5ページの圏域の設定については、具体的に地図などは入れないのですか。

(事務局) そこまでは入れていません。

(林委員長) 生活支援コーディネーターとの関わりは、どうでしょうか。

(事務局) 日常生活圏域という設定はしていますが、それ以上の具体的な部分は今後検討します。

(林委員長) 確か第2期計画の9ページには、生活支援コーディネーターの方が作成した地図が載っています。

(事務局) 高齢者保健福祉計画において、日常生活圏域の部分が載っていると思います。

(林委員長) 目次構成案についてはよろしいですか。具体的な部分について説明がありました。推進委員会からの今後の課題として骨子案42ページの「4 現状から見える課題」にまとめがあります。基本目標については第1期と第2期は同じでしたが、第3期は地域共生社会の考え方を踏まえて、より分かりやすく、時代を先取りした形で改めたいという部分があります。これは計画ですので第1期、第2期、第3期がつながっていないといけないのではといったご意見もあるかと思いますが、推進委員会での第2期計画における課題の整理を踏まえて、今回、地域福祉計画と地域福祉活動計画で基本目標を合わせることにしました。この点の質問やご意見よろしいですか。基本目標は地域福祉計画も地域福祉活動計画も同じものですが、施策については行政と社会福祉協議会で違う取組があるため、異なるものが入ってくるということです。また、施策については指標を入れて、進捗の見える化をしていくということです。その下に具体的な取組等を記載していくといった説明でした。基本目標が第2期計画から少し変わりますが、施策の重点事業や取組とリンクさせていく形で、46～49ページに記載されています。基本目標が同じなので、地域福祉計画と地域福祉活動計画が一体化することが見えています。この中で具体的な指標を、行政の5年後の施策まで掲載し、成果指標と取組指標で見える化を進めていくとの説明でした。骨子案についてご意見ありますか。

(齋藤委員) 第3期計画では地域福祉計画の内容について重点取組が入るということですが、地域福祉活動計画ではどのように記載されますか。また重点と重点でない取組の差別化は、どのように図るのかお聞きしたいです。

(林委員長) 社会福祉協議会の地域福祉活動計画については現段階の骨子案48、49ページには重点がありませんが、どのように整合性を図る予定ですか。

(事務局) 社会福祉協議会の取組での重点項目については、各アンケート、住民懇談会、団体ヒアリングや住民懇談会の結果を踏まえて課題を検討し、重点を入れていく予定です。

(林委員長) それは45ページの行政の基本目標1では「施策1 地域福祉計画の重点取組」が載っていますが、こういった位置付けも活動計画と一体化される予定ですか。

(事務局) そこも含めてこれから詰めていきたいと思っています。

- (林委員長) ぜひ地域福祉活動計画の方も位置付け方を合わせてください。数値目標についてはどのようなものが入りますか。成果指標はパーセンテージ等の、数字での設定になりますか。
- (事務局) なるべく数値目標で掲載を考えていますが、どうしても設定が難しいところは文章で分かりやすく表示したいと思います。
- (林委員長) 数値というと、参加者数、意識度、アンケートでの割合を挙げるといったようなものですか。
- (事務局) そうです。
- (林委員長) 取組指標にある指標の関連事業名とはどういうイメージでしょうか。
- (事務局) 52ページに例として挙げていますが、例えば「しもつけふくし塾参加者数」の指標に対して、関連事業で「しもつけふくし塾」という事業が入ります。参加者数、開催回数等を数値化します。
- (林委員長) わかりました。その内容と、見開き右側の具体的取組はリンクしないといけないですね。イメージがついたでしょうか。事務局は、これを11月の素案までの1ヶ月で揃えられますか。
- (事務局) はい。
- (林委員長) 11月には数値目標が適切かについても委員会で検討しないといけないですね。計画の枠組みは大体見えてきているので、進め方としては実現できると思います。福祉団体や社会福祉法人の活動については「私たちの取り組むこと」の部分に入れるということですね。この他に成年後見制度については第6章で入ってくるということです。第2期計画から基本目標をバージョンアップした形で地域、人、仕組みをつくるためにどうしたらいいかといったイメージで設定したという理解でよろしいでしょうか。
- 最後に追加資料2 基本理念についていかがですか。第2期計画の基本理念は「思いやりの心で互いに支え合い、いきいきと暮らせる 幸せ実感のまち 下野」でした。市長が「幸せ実感」という言葉を使われるので、こういった文言となりました。第3期計画の基本理念の検討にあたっては、国のスローガンになっている地域共生社会の考え方を踏まえて、事務局が1番から5番の案を考えました。この候補から選んでもいいですし、他のご意見を挙げていただいても構いません。策定委員会の皆様の意見で決めたいと思いますので、ご意見を伺いたいと思います。
- (川侯副委員長) 次回までに別の案があれば事務局に出していただき、次回それを加えて決めてはいいでしょうか。それで間に合いますか。
- (林委員長) 間に合わないことはないです。
- (川侯副委員長) 事務局は、どう考えていますか。決めるなら本日がいいですか。
- (事務局) ご意見や案を頂けるようでしたら本日頂ければと思います。
- (林委員長) 候補に挙がっている言葉で、みなさんで選んではいかがでしょう。
- (石嶋委員) キーワードの確認ですが「幸せ実感」は市の総合計画に入っていますか。
- (林委員長) はい、入っています。
- (石嶋委員) 市の現行の総合計画の計画期間が終了し、キーワードが変わってしまうと困りませんか。
- (事務局) 総合計画は後期計画が、今年度から令和7年度までの計画です。

- (石嶋委員) では第3次計画の間は「幸せ実感」を使っても大丈夫ですね。
- (林委員長) 「共生のまち」という言葉は現時点でなかなか理解がなくても、5年後には一般化するかもしれません。キーワードを少し整理しましょうか。骨子案の4ページにあるSDGsの説明に「一人ひとりの違いを認めて尊重していけるまち」という言葉があります。また、案3～5は「下野」がなくなり「まち」となっています。5番は、まさしくSDGsの考え方ですね。決めるのは次回にしましょうか。
- (川俣副委員長) 皆さんどうですか。今日決めますか。
- (林委員長) ここは本当に力を入れないといけない部分です。
- (川俣副委員長) 5年間ずっと本計画で使っていくので大事です。
- (山田委員) 一つ参考としてみなさんに聞いていただきたいことがあります。新型コロナウイルスの影響で老人クラブ連合会は、活動が難しくなっています。敬老会の時に私と女性部長さんで家庭訪問をしました。会員20名が、それぞれ異なる暮らし方をされていることが分かりました。ここに書いてあるようなきれいな言葉では表現できないことが沢山あることが分かりました。こういった事は、きれいごとではいけません。そのため、こういった言葉を再度各団体で吟味していただきたい議論されると参考になると思います。本日決めることは時期尚早ではないでしょうか。
- (林委員長) では、次回会議までに委員があらかじめ意見を出すようにしましょうか。その結果を踏まえて事務局の方でまとめて頂いた後、本日挙がっている5案と合わせてみなさんで決定してはいかがでしょうか。
- (事務局) ご意見の報告期限を10月25日月曜日までとさせていただきます。お電話でも社会福祉課宛のメールでも結構です。
- (林委員長) それでは、25日まで10日間くらいですがお願いします。今回は、会議前に素案が送られてくるということですので、それを見て出席をお願いします。この他に何かありますか。
- (粥見委員) 第3期計画の出来上がったものは、何部発行で、どこに置かれますか。
- (事務局) 本計画書は策定委員、議員等に配布する予定です。概要版は8ページほどのわかりやすいものにして自治会をとおして配布をする予定です。
- (林委員長) 社会福祉協議会で、計画を披露するイベントをしてはどうですか。せっかく第1期、第2期と力を入れて推進してきたのに認知度で残念な結果だったので何か案を考えたいと思います。
- (川俣副委員長) 評議員や理事には配っていますね。
- (林委員長) 部数はいくつですか。
- (事務局) 市と社会福祉協議会合わせて400部です。概要版は2万部です。
- (林委員長) 広報に特集はしますか。
- (事務局) 広報やホームページに載せていきます。
- (林委員長) 分かりました。周知に力を入れていただければと思います。

(5) その他

(林委員長) その他ご意見ございますか。

以上、本日の議題について皆様のご意見をいただきながら進行了しました。素案の検討は次回となります。よろしくお願いいたします。本日の議題は終了いたします。事務局へお返しいたします。

4. その他

(事務局) 次回会議は11月19日金曜日の午後1時30分から同じ会場です。内容は素案の検討と、パブリックコメントの実施についての2つです。よろしくお願いいたします。

5. 閉会

(事務局) 以上をもちまして第3回第3期下野市地域福祉計画及び活動計画策定委員会を閉会いたします。

議事署名人

議事署名人
